

高品質な牧草生産のための雑草対策技術の開発

背景

- 雑草侵入により牧草地の収量性が低下し、生産コストが上昇しています。
- ・侵入する雑草種が以前とは変化しているため新たな雑草対策技術の開発が必要となっていました。 ⇒【成果1, 成果2】
- ・古くなって雑草侵入などにより収量性が低下した草地は草地更新*を行うことが必要ですが、草地更新率が低く推移していました。 ⇒【成果3】



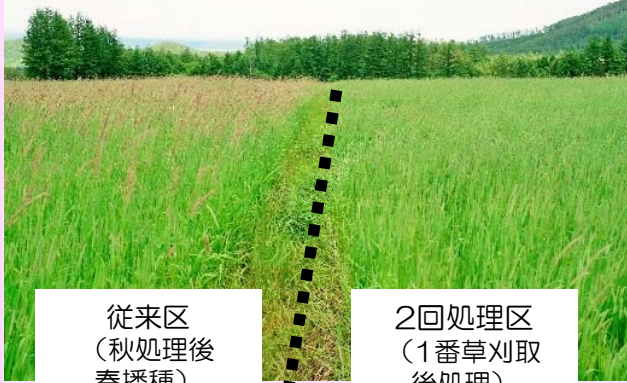
* 草地更新：牧草地を耕し、新たに種子を播くこと。

成果

1 草地更新時の雑草対策

グリホサート系除草剤の2回処理 (前植生処理+播種床処理)が効果的！

草地更新後3年目1番草（薄茶色に見えるのが雑草（リードカナリーグラス））

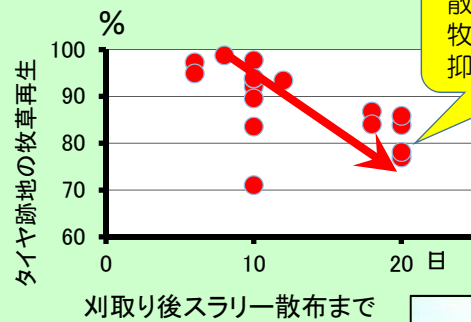


従来区
(秋処理後
春播種)

2回処理区
(1番草刈
後処理)

2 雑草侵入を抑制する維持管理法

刈取り後のスラリー(液状の糞尿) 散布はすみやかに！



散布が遅れると
牧草の生育が
抑制される

タイヤ跡ではせっかく再生した牧草が台無し！



3 草地更新の推進方法



成果 **1** **2** **3** を
まとめた「植生改善指針」
を策定

期待される効果

○長期間の雑草侵入抑制と高品質多収な牧草生産が可能となり、牧草生産コスト低減（8%）が期待できます。

10年に一度以上の草地更新を目標に
地域での取り組み推進！（現状は30年に一度）

